

黄金湯が再開

中頓別町の公衆浴場

8日に復活祭催す

昨年札幌 渡辺さん5年振りの挑戦

【中頓別】平成18年7月で閉業した、中頓別の公衆浴場「黄金湯」が、この秋から復活する。経営するのは札幌から昨年町内に移住した渡辺由起子さん(56)。町に必要な「お風呂にしたいきい」と話し、8日には、復活祭と題し黄金湯で餅まきや旧天北線のフィルム上映会などの催しを開き、10日から仮営業として再開する。

渡辺さんは保健師や看護師として札幌で勤務。さらに青年海外協力隊に参加してネパールで活躍した経験もある行動派。以前町内で行われたソーシャルファームの研修会に参加。それが縁で閉業した黄金湯の存在を知り、「まちのお風呂屋さん」の再生を図ろうと、昨年中頓別町へ移住。

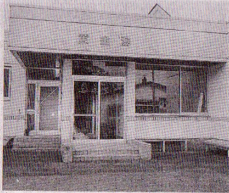
町社協の保健師(臨時)として勤務する傍ら、役場の協力も得ながら準備。道の起業家コンペ(補助)に採択され、町の地域づくり活動支援金や自己資金を充てる。施設は町から賃貸することにして再開に踏み切った。

「お風呂屋さん」という地域の公共の場を利用して、休息や癒し、精神交流など健康増進と深い係わりがある公衆浴場の役割発揮を目標にする。さらに、障害者の雇用の場として何かできないかと考えできた、自分の夢の実現にも繋げたい思いもある。「移住して町の案晴らしや人の親切さが心に染み、ここで挑戦してみよう」と決心させてくれました」と話す。

町内に再帰を援けるという人は多い。経費用減に来年度は木材を燃料にするボイラーを導入する計画。この燃料も廃材

や間伐材で「協力するよ」という温かい声。道内で暮らす3人の子供達も後押し。渡辺さんは「簡単でないことは分かってる。何とか足を運んでもらえる親しみやすい場にした」と意欲。明年4月には法人化も目指す。

8日が復活祭。9日は体の不自由な人に声を掛けていた。一般人の浴は銭湯の日の、10月10日から受けける。廃木活用



復活することになった黄金湯

「お風呂屋さん」という地域の公共の場を利用して、休息や癒し、精神交流など健康増進と深い係わり